文 訳

エード・メモワール

過去鏡月にわたり、大使館及び外海省の代表 者の間で、合衆国の通常の原子力層水証の日本 国への寄港に関する情報交換が行たわれてきた。 原子力潜水艦は、推進系統の相違を除き、現在 日本国の港に寄港している合衆国海軍の他の鑑 船となんら異なるものではなく、したがつて、 日米間の安全保障に関する諸取極に基づく寄港 の福利と同一の福利を享有するものである。そ れゆえ、これらの活水症の寄港は、相互協力及 び安全保障条約に基づく等前協議の対象とはな らたいが、合衆国政府は、日本国民の懸念を承 知しているので、この福利を行使するに先だつ て、日本国政府とこの問題を討議することとし た。事前協議にかかる事項については、合衆国 政府は、1960年1月19日付けの日米共同

コミュニケに述べられているとかり、日本国政府の意思に反して行動する意図を有したい。

合衆国は、原子力室附に向する情報の提供に 関する法令上及び脳を深設上の制約の範囲内に かいて、全面的に約力する見地から、可能たあ らゆる努力を払い、かつ違道常の原子力潜水症 の安全性、補償及び関連事項に関する質問に対 して以下に述べられているとかりの回答を行た つた。

1. 安全性及び運航に関する話点.

原子方軍 離社、100回以上にわたり外国 の港に寄港したが、いかたる種類の事故も生 したことはなく、また、これらの寄港は、オ べて、当該軍艦の安全性についての合衆国の 保証のみに基づいて、受入国により認められ てきた。 通常の原子力 潜水艦の安全性を確保 するために、それらの違造、維持、運航並び に乗組員の 過抜及び 訓練にあたつては、広範 国にわたる予防措置が執られている。 通常の

- 2 -

原子力潜水艦の原子炉は、原子爆弾のようた 爆発が起らたいように差遣されている。これ 6の原子炉に内装されている安全装置け、緊 急の際には必らず原子炉を停止するようにた っている。通常の原子力潜水艦の十ぺての乗 組員は、高度に専門化された訓練を受けてお り、かつ、高度の安全基準を厳格に守つて作 られた運航手続に厳密に従つてその任務を遂 行している。海軍の原子力推進装置の安全運 航の歴史は、これらの予防措置が成功であつ たととを示している。通常の原子力層水鑑の **退航は、それに適用される厳重な安全基準に** よって、少なくとも陸上原子炉と同等に信頼 することができる安全性を有するものとなつ ている。

合衆国原子力軍猛の運航の歴史を遊じ、原 子炉装置に損害を生じ、又は周辺の環境に何 らかの放射能の危険をもたらした事故はなか つた。

- 3 -

合衆国の通常の原子力潜水館の外国の港へ の寄港については、合衆国の港に寄港する場 合に適用される安全基準と同一の安全基準が 適用される。この点に摂し、日本国政府は通 常の原子力潜水館が寄港する日本国の港の周 辺にかける安全社を考慮するにあたり適切と 認めるすべての情報を提供するものと了解す る。

通常の原子力陸水證は、合衆国公衆衛生局 及び原子力委員会の両者により審査された合 衆国海軍の放射線管理の手続及び基準に従い、 その放射性排出物を安全な發度水準及び分量 に制限しなければならないこととなつている。 通常の原子力潜水錠の液体排出物は、日本国 の法律及び基準並びに厨際基準に完全に適合 するものである。多致の通常の原子力潜水臟 が常時出入している港に至いて合衆国公衆衛 生局係官が行なつた広範囲にわたる調査の結 果、通常の原子力潜水證は海洋生物を含めて 局辺の一般的たバックグラウンド放射能に対 し、なんらの影響をも与えていないことが判 明している。通常の原子力潜水艦が寄港した いずれの港においても、放射能汚染は、発生 したことがない。

使用済み汚染除去剤延等港内又は堕地の近 くては決して放出されることはをく、したが つて、寄港に関連して危惧するにあたらない ものであり、また、既知の漁区の近傍ではい かなる所に至いても放出されることはない。 固形廃業物は、承認された手続に従い、通常 の原子力潜水艦によつて合衆国の沿岸の施設 又は専用の施設船に選ばれたのち、包装され、 かつ、合衆国内に埋められる。

1959年1月に総給局原子力推進部が作 成した合衆国原子力軍艦の放射性廃棄物処理 に関する報告(写し1部は、日本国政府に提 供済みである。)は、通常の原子力潜水艦の 廃棄物処理及びこれに関する合衆国海軍の指

- 5 -

合についての公式のかつ福威ある資料である。

合衆国海軍の指令は、前記の報告に述べら れた諸原則によりつつも、同報告に掲げる合 衆堅標準局便覧第52号ではなくて、国際放 射線防護委員会及び合衆国際準局便覧第69 号による新たな一層厳絶な防告を反映したも のに改訂されている。

道常の原子力溶水症の燃料交換及び動力装置の修理を日本国又はその領海内において行 なうことは考えられていない。

放射能にさらされた物質は、通常、外国の 港にある間は、通常の原子力溶水縫から撥出 されることはない。例外的な事情の下で、放 射能にさらされた物質が撥出される場合にお いても、それは、危険を生ずることのない方 法で、かつ、合衆国の港においてとられる手 続に従い行なわれる。

通常の原子力潜水艦は、 積須賀及び佐世保 に寄港することが予定されている。日本国政 - 6 -

Ĩ

府がこれらの溶におけるバックグラウンド放 射能の検査を行ないたい場合には合衆国の当 局は、よろこんで協力する。

入出 虐は、 原子動力によつて 行 たわれる。 補助動力の 使用 では、 遅 流上の 安全を 確保す るために十分 な 操縦性を 発揮する ことが でき ない。 原子 炉は、 通常、 てい 泊 後間 も たく 停 止され、 また、 適常、 出港の 数時間 節に 始動 される。

合衆国軍艦の無害通行権を害することをく、 通常の原子力潜水艦は、慣行に従い、通常は、 造令直接進入し又は港から直接出航する場合 に限り日本国の領海を通過し、その際は、通 常の航路及び航行補助施設を利用することが 留意される。港への出入は、通常、日中に行 なわれるが、例外的な運航上の必要により夜 間に移動したければならないことがあるかも しれたい。通常の原子力潜水艦が港に出入す る際に、通常の海上交道を止める必要はたい。

- 7 -

道常の原子力潜水溢の移動は、他の複類の潜 水癒以上に、港の交通に影響を及ぼすもので はたく、また、より大型の罩廊よりもその影響は少ない。

通常の原子力潜水盤の寄藩目的は、(e) 乗組 員の休差及びレクリエンション並びに(e) 兵た んの補給及び維持にある。

2. 責任及び補償に関する諸点

事故が発生した場合の補償については、地 位協定の規定に従って措置するものとする。 地位協定第18条第3項(a)の規定に基づいて、 1961年6月17日の日本国法律第147 号は、同法が日本国の自衛隊の給船に遮閉される限度にないて、通常の原子力溶水達に係る原子力容赦で、放射能汚染による疾病を含め負傷又は死亡をもたらしたものについての 請求の処理に対しても、ひとしく適用される。 同様に、小規模海事損害に関する1960年 8月22日付けの交換公文及び1961年9

- 8 -

1

月5日付の合同委員会合意も、また、通常の 原子力 潜水 壁に 適用 される。

前記の地位協定が適用されない場合には、 合衆民原子力宣編に係る原子力事故から生ず る請求を辞決するための合衆国の法律として 合亲曰公铅法、合亲国海事請求解決指匪法及 び合衆国外国請求法がある。公船法及び海亭 請求解決権限法においては、海事法上の法的 責任を示すことが要求される。この点に関し て、公船法の下では、合衆国は、合衆国の軍 艦の行為については、私船の所有者がその船 舶の行為に対して責任を負う限度において、 責任を負うことが留意される。合衆国は対人 的訴訟で訴えられることができ、また、合衆 国行政府は、その軍艦の行為に対する公船法 に基づく訴訟を、上記の制限以外の金額上の 制限なしに、解決し又は示談にすることがで きろっ

海事請求解決補限法は、海軍長官に対し、

100万ドルの頃を限度として、請求を意認し、かつ、これに対して支払う協臣を与えて かり、100万ドルをこえる請求については、 ノ件ごとに意出承認を求めるため、議会に報告されることとなつている。外国請求法の下 では、辞決は、外国請求委員会により、法的 責任の立証を必要とすることなく行なわれう るが、合衆国が当該損害を生ぜしめた旨の立 証がなければならたい。同法によれば、1.5 万ドル以下の領の請求については、三軍の長 官が支払うことができる。高額の請求につい ては、必要な歳出意認を求めるため、議会に 付託しうることとなつている。

いかなる場合にも、前記の地位協定が適用 されないときは、合衆国政府は、寄港してい る通常の原子力潜水艦に係る原子力事故から 生する請求を、外交上の経路を通じて処理す る用意があることを保証する。

昭和3.9年8.月17日

- 10 -

## AIDE-MEMOIRE

During the past months, there has been an exchange of information between representatives of the Embassy and representatives of the Gaimusho, relating to the visits to Japan of U.S. nuclear-powered submarines (SSN's). With the exception of the difference in propulsion systems, nuclear-powered submarines are no-different from other units of the United States Navy presently calling at Japanese ports. and accordingly enjoy the same right of entry under US-Japan security arrangements. While the entry of these submarines, therefore, is not subject to prior consultation under the Treaty of Mutual Cooperation and Security, the United States Government, aware of the . concern of the Japanese people, has chosen to discuss this matter with the GOJ before exercising this right. With respect to matters that do involve prior consultation, the United States Government, as stated in the joint US-Japan communique of January 19, 1960, has no intention of acting in a manner contrary to the wishes of the Japanese Government.

Within the statutory and security limitations on the disclosure of information concerning nuclear powered warships, the United States has made every possible effort to be fully cooperative and has given answers as set forth below to questions on SSN safety, compensation, and related matters.

2

1. Safety and operational aspects

There has been more than 100 visits of nuclearpowered warships to foreign ports without incident of any kind, and all of these visits have been accepted by the host countries solely on the basis of U.S. assurances as to the safety of the ships involved. Extensive precautions are taken in SSN construction, maintenance, operation and crew selection and training to insure safety of these ships. SSN reactors are so constructed as to be unable to explode like an atomic bomb. Safety features built into these reactors assure shutdown in event of emergency. All SSN crew members' receive highly specialized training and carry out their tasks strictly in accordance with operating procedures which thave been developed with rigid adherence to high safety standards. The history of the safe operation of naval nuclear propulsion plants indicates that these precautions have been successful. The stringent safety standards applicable to SSN's make the reliability of their operation at least equivalent to that of land-based reactors.

Throughout the history of operation of U.S. nuclearpowered warships, there have been no accidents that have resulted in damage to reactor plants or any radioactive hazards to the environment.

The same safety criteria are applied with regard to visits of U.S. SSN's to foreign ports as are applied in the case of their visits to U.S. ports. In this regard, it is understood that the Government of Japan will provide any information which it believes pertinent to safety consideration around ports in Japan to be visited by SSN's.

SSN's are required, in accordance with the United States Navy's radiological procedures and criteria reviewed by both the United States Public Health Service and the Atomic Energy Commission, to limit their radioactive discharges to safe concentration levels and quantities. SSN effluent discharges are wholly consistent with the Japanese laws and standards as well as international standards. As a result of extensive tests made by U.S. Public Health Service officials at ports where large numbers of SSN's habitually operate, it has been shown that the SSN's mave no effect on the general background radioactivity of the environment including marine life. No contamination has occurred in any port visited by SSN's.

Demineralizer waste is never discharged in ports or near land areas and is therefore not of concern in connection with port visits. Furthermore, it is not

- 3 -

discharged anywhere near known fishing areas. Solid wastes are transferred by SSN's to U.S. shore or tender facilities for subsequent packaging and buriel in the U.S. in accordance with approved procedures.

The report on radioactive waste disposal from U.S. nuclear-powered ships prepared by the Nuclear-Propulsion ( Division of the Eureau of Ships in January 1959, a copy of which has been made available to the Japanese Government, constitutes an official and authoritative source of information regarding SSN waste disposal and the U.S. Navy's instructions pertaining thereto. In keeping with the principles stated in this report, the Navy's instructions have been revised to reflect new, more conservative, recom mendations of the ICRP and of National Eureau of Standards Handbook No.69, rather than Handbook No.52 as stated in the 1959 report.

It is not contemplated that SSN fuel would be changed or that power-plant repairs would be undertaken in Japan or its territorial waters.

No material exposed to radioactivity is normally removed from SSN's while in foreign ports. If, under unusual circumstances, material so exposed were to be removed, this would be done in such a manner as not to

- 4 -

cause a hazard and in accordance with procedures used in U.S. ports.

It is intended that SSN's call at Yokosuka and Sasebo. If the Goverrment of Japan wishes to make background checks at these ports, the United States authorities would be glad to cooperate.

Entry and departure are accomplished by nuclear power. The use of auxiliary power does not provide sufficient maneuvering power to insure operational safety. Reactors are normally shut down shortly after mooring and they are normally started up a few hours before departure.

It may be noted that without prejudice to the right of U.S. warships to innocent passage and in accordance with usual practice SSN's would normally transit Japan's territorial waters only when proceeding directly to and from port, utilizing normal channels and navigational alds. Port entry and departure are normally accomplished in daylight, although unusual operational requirements night necessitate night time movement. It is not necessary to stop normal sea traffic when SSN's enter and depart a port. SSN movements have no more effect on port traffic than other submarines, and they have less effect than larger warships.

- 5 -

The purpose of SSN visits is to provide (a) rest and recreation for crews and (b) logistic support and maintenance.

## 2. Liability and compensation aspects

Compensation in the event of an accident will be dealt with in accordance with the provisions of the Status of Forces Agreement. To the extent that Japanese Law No.147 of June 17, 1961 would apply to ships of the Japanese Self-Defense Forces, it would be equally applicable under the provisions of Article 18, paragraph 5(a) of the Status of Forces Agreement, to the handling of claims for nuclear incidents involving SSN's where personal injury or death is involved, including sickness or disease caused by radiation contamination. Similarly, the exchange of Notes of August 22, 1960 and the Joint Committee Agreement of September 5, 1961 concerning small maritime claims also apply to SSN's.

Where the Status of Forces Agreement is not applicable the United States Public Vessels Act, the United States Admiralty Claims Settlement Authority and the United States Foreign Claims Act are available under United States legislation for settling claims arising out of a nuclear accident involving a United States

- 6 -

muclear warship. Under the Public Vessels Act and the Admiralty Claims. Settlement Authority a showing of legal liability in maritime law is required. In this regard it may be noted that under the Public Vessels Act the U.S. is liable for acts of its warships to the same extent as private owners are liable for the acts of their vessels. The U.S. may be sued in person, and the U.S. Executive Branch may settle or compromise suits under Public Vessels ACt for activities of its warships without further dollar limitation.

The Admiralty Claims Settlement Authority authorizes the Secretary of Navy to approve and pay a claim in an amount up to \$1 million. Claims in excess of \$1 million are to be reported to Congress for case by case appropriations. Under the Foreign Claims Act settlement may be made by the Foreign Claims Commission without proof of legal liability, but there must be proof that the damage was caused by the United States. Under this legislation claims up to \$15 thousand may be paid by the Secretaries of the military departments. Large claims may be referred to Congress for necessary appropriations.

In any event, when the Status of Forces Agreement is not applicable, the United States Government assures

- 7 -

its readiness to deal with claims arising out of a nuclear incident involving a visiting SSN through diplomatic channels.

August 17, 1964

199

1